

科目名称	生活支援技術（アクティビティ）
授業コード	BL290
英語名称	
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	松永 美輝恵, 尾渡 順子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	生活の活性化につながる生活支援としてのアクティビティに着目し、アクティビティとは何か、その効果はどのようなものか、アクティビティ計画の立案方法などを教授する。また、視覚教材を用いたり、グループディスカッションも取り入れ、様々な角度からアクティビティを学ぶ。加えて、学生が自ら計画立案し、実際に実践する。実践後は、利用者の立場に立って計画を評価し、アクティビティにおけるPDCAサイクルを体験的に理解する内容となっている。
科目に関連する実務経験と授業への活用	高齢者施設で介護福祉士として従事してきた経験と、アクティビティ・ワーカー（認定資格）としての経験を活かし、実践に即した知識を活用して利用者の視点に立ち、利用者の自立に向けたアクティビティについて講義する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「社会福祉に関する基本的な知識や技術を修得している」、カリキュラムポリシーに定める「社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として必要な知識や技術を得る科目を配置する」を実現するよう、到達目標を立てている。  【到達目標】 1．生活の活性化につながる生活支援について理解できる 2．アクティビティの意義・目的・効果について説明できる 3．障害の特性に応じたアクティビティの知識・技術を理解できる 4．アクティビティの実施計画を立案・実施・評価することができる
計画・内容	1．生活支援の理解： ・オリエンテーション ・生活の活性化につながる支援としてのアクティビティ（松永）  2．対象者の状態に応じたアクティビティの提案と留意点（松永）  3．認知症ケアで学ぶアクティビティの効果（尾渡）  3．アクティビティ企画・振り返りの意義と方法 ・PDCAサイクルの理解 ・企画書・報告書の書き方（松永）  4．通所介護の高齢者対象のアクティビティ 素案作成（松永）  5．通所介護の高齢者対象のアクティビティ テーマの発表・共有（松永）  6．通所介護の高齢者対象のアクティビティ 企画書作成（松永）

計画・内容	<p>7. 通所介護の高齢者対象のアクティビティ 企画書の発表・共有 (松永)</p> <p>8. 通所介護の高齢者対象のアクティビティ 実践に向けた準備 (松永)</p> <p>9. 通所介護の高齢者対象のアクティビティ 臨床実践 (松永)</p> <p>10. 通所介護の高齢者対象のアクティビティ 臨床実践の振り返り (松永)</p> <p>11. 通所介護の高齢者対象のアクティビティ 報告書作成 障害者支援施設の入所者対象のアクティビティ 素案作成 (松永)</p> <p>12. 障害者支援施設の入所者対象のアクティビティ ・テーマの発表・共有 ・実施時の留意点や工夫の検討 (松永)</p> <p>13. 障害者支援施設の入所者対象のアクティビティ 企画書の発表・共有 (松永)</p> <p>14. 障害者支援施設の入所者対象のアクティビティ 企画書の修正 (松永)</p> <p>15. 総括 (松永)</p>
授業の進め方	<p>第1 3回が講義が主となり、ほかは演習である。</p> <p>第9回は通所介護事業所での実践を予定している。それまでに&lt;グループで作成&gt;した企画書を整理し、準備をする。また第10回で振り返りを行い、次の企画に生かす。</p> <p>第11 14回は、介護実習 の実習先である障害者支援施設の入所者を対象とした企画書を&lt;個人で作成&gt;する。</p>
能動的な学びの実施	<p>授業において学生への質問を活発に行う予定であり、積極的な授業参加が期待される</p> <p>通所介護事業所でのアクティビティ企画は、グループメンバー全員でディスカッションして、立案し、実践ののちに振り返る。</p> <p>アクティビティ企画は、グループまたは個人で取り組むが、意見交換を適宜行う。</p> <p>科目の前半では、こころとからだををひらくために「歌」を歌う。一部は学生のリクエストにより曲を選定する。</p>
授業時間外の学修	<p>授業時間外の学習は、合計60時間程度とする。</p> <p>予習・指示がある場合はそれに従う。指示がない場合は各回の授業タイトルに関する事項について、情報を主体的に収集する(各回1時間程度)</p> <p>復習: 配布資料などを読み返し、内容を理解する(各回1時間程度)</p> <p>課題: アクティビティ計画の立案にあたり、内容を検討する(各回2時間程度)</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 特になし</p> <p>【参考書】 授業内で紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尾渡順子(2020)「認知症の人もしょにできる高齢者レクリエーション」講談社</li> <li>・尾渡順子(2017)「介護で使える言葉がけ シーン別実例250」つちや書店</li> </ul>
成績評価方法と基準	<p>アクティビティ企画(80%)</p> <p>通所介護の高齢者対象のアクティビティ企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションへの参加状況(10%)</li> <li>・発表・共有時の態度(5%)</li> <li>・臨床実践に臨む態度(10%)</li> </ul> <p>障害者支援施設の入所者対象のアクティビティ企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表・共有時の態度(5%)</li> <li>・企画書作成に取り組む姿勢(20%)</li> <li>・最終版の企画書の内容(20%)</li> <li>・最終版の企画書の提出状況(10%)</li> </ul>

成績評価方法と基準	講義に臨む態度（20%）
課題等に対するフィードバック	企画書作成や講義等における質問・感想・意見等は、授業内で全体に向けてコメントする アクティビティ企画・実践に対しては、授業内で個別・グループごとに指導・助言をする
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	介護福祉士国家試験受験資格必修科目である 本科目は、介護福祉士養成課程履修者でなければ履修できない
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせる。 zoomでは、対面授業と同じく全体・グループ・個別の各学習形態をとり、zoomのブレイクアウトルームを活用し、演習や発表などの方法によりアクティブラーニングを行う。  成績評価方法と評価基準は変更しない